

5.EQで音質調整

ミックス・マスタリング講座入門編

Step One DTM

DTM School
Jiyugaoka Tokyo

周波数帯域について

EQで音質調整<ミックスマスタリングの手順5>



- ・ 人間の可聴域…20Hz~20kHz(20,000Hz)
- ・ 低域…20~250Hz
- ・ 中低域…250~1kHz
- ・ 中高域…1kHz~5kHz
- ・ 高域…5kHz~20kHz

- ・ 楽器のチューニングに用いられるA3(ラ)の音は、DTMの初期設定では440Hz
- ・ 1oct下がる(A2)と半分の220Hz
- ・ 1oct上がる(A4)と倍の880Hz

EQカーブの知識

EQで音質調整<ミックスマスタリングの手順5>

☑Low Cut , Hi-Pass Filter , HP

- ・ 設定した周波数以下を聴こえなくする
- ・ ボーカル等マイク録音したトラックには原則行う
 - ・ キック、ベースに対してLow Cutを行う場合は、音がショボくならないように気を付ける
- ・ オススメは、75Hzまたは100Hzに設定すること

☑Low Shelf

- ・ 設定した周波数以下を一定量ブーストしたりカットする
- ・ 主にマスタリングの時に使用され、ミックスの時には使用しないことをオススメします

☑Peak,Bell

- ・ 「EQする」と言われたら普通Peakタイプを使うことを指す
- ・ 設定した周波数をブーストしたりカットする

☑High Shelf

- ・ 設定した周波数以上を一定量ブーストしたりカットする
- ・ 高域をブーストする際は、Peakを使うよりHigh Shelfの方が自然に仕上がる(EQくさい音、耳の痛い音になりにくい)

☑High Cut , Lo-Pass Filter , LP

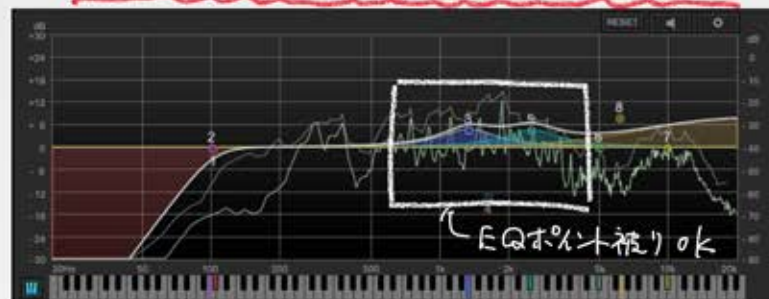
- ・ 設定した周波数以上を聴こえなくする
- ・ 音質を犠牲にしてもなお、除去したいノイズがある際のみ使用
- ・ Low Cutと組み合わせてラジオボイスを作る際に

Q幅の知識と注意点

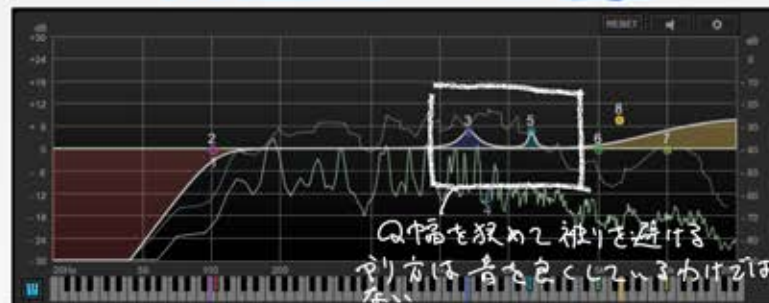
Q幅とは？

- ・主にPeakタイプを使用時、ブースト量、カット量が増えると、影響する周波数帯域も大きくなるため、影響幅を調整する。
- ・ブースト時はQ幅を広く
- ・カット時はQ幅を狭く
- ・耳でEQポイントを探せるようになってから、Q幅を活用することをオススメします。

↓ブースト時の正しいQ幅(Q幅は初期設定の広めのまま)



↓初心者に見られる間違ったQ幅の使用例



↓上級者向けQ幅を狭くして音質改善するためのカットEQ

